

様式第 3 号

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		川西市参画と協働のまちづくり推進会議 令和元年度第 4 回 B 部会	
事 務 局 (担当課)		総合政策部 参画協働課	
開 催 日 時		令和元年 11 月 19 日(火) 午後 6 時半から午後 8 時 45 分	
開 催 場 所		川西市役所 7 階 大会議室	
出 席 者	委 員	田中晃代、横谷弘務、釜本孝彦、延命寺陽子、金剛丸朋子、相良雅江、田中真優、中村佳子、堀田大樹、山澤剛、吉尾豊	
	そ の 他		
	事 務 局	参画協働課長、同課長補佐、同課主任 1 名	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会 議 次 第		1 開 会 2 議 事 B 部会のテーマ 「(地域・市民活動に対して、)やる気や興味・関心が薄い 方を巻き込んでいくには」 3 閉 会	

18:30～

1 開 会

2 議 事

B 部会のテーマ

「(地域・市民活動に対して、)やる気や興味・関心が薄い方を巻き込んでいくには」

○ 田中部会長から「目的と進行」について説明(別添資料)

- ・ 釜本委員の行動指針(案)をベースに、各委員が宿題を作成(アイデア等)
- ・ 12月の全体会で一定の方向性を示し、3月に一定の報告書を作成予定

(事務局提案)当初、12月全体会で一定のアウトラインを作成し、1～2月で見せ方の検討、3月報告書作成予定としていた。両部会の議論内容、委員からの提案などをふまえて、3月に一定のアウトラインを作成し、4～5月で見せ方の検討、6月に報告書完成とすることも可能である旨を説明。(委員の任期は6月まで)正式には、A 部会会長のご意向を確認し、岩崎会長と協議の上、12月全体会で方向性を確認。

- ・ ワークショップ形式で、2グループに分かれ、「関心の薄い若い世代を中心にコミュニティの活動にどのように関わってもらうか」議論を深める

(ワークショップ議論、発表などで委員から出た意見)

○ グループ 1(横谷委員、中村委員、堀田委員、山澤委員、吉尾委員)

- ・ 単に、「防災訓練」をしましょうと声をかけても、興味関心をひかない。また、防災訓練を昼間に行っても、非常時を想定しにくい。そこで、夜間に「リアル防災訓練」と称して、訓練を行ってはどうか。
- ・ 「～～できる人が欲しい」では、手足となる感覚になり、参加への扉が閉ざされてしまう。こういうテーマなら取り組みたいか。
- ・ 自治会の班長会議で、「ぶっちゃけ自治会はどうか」というテーマでワークショップを行った

ことがある。実施前は疑問を呈する意見もあったが、実施後は本音の話ができたことで、活性化につながった。また、「会館の利用について」ではなく、「会館で〇〇(スポーツイベント名)を応援しよう」などのテーマ設定にすることで、参加者が増加した。リアルと遊び心のバランスが重要。

○ グループ 2(釜本委員、延命寺委員、金剛丸委員、相良委員、田中真優委員)

- ・ 自治会は、災害時の助け合いなどの面で重要。実際に顔を合わせ知り合いになっていないと、いざという時に声かけは行わないのでは。
- ・ 活動の目的を明確にすること、参加しやすい場所や時間(平日夜など)の設定、活動のメリット(有償の公募委員を導入するなど)に取り組んでは。
主観だが、女性は口コミを大切に、男性は目的や仕事(役割)を重要視する。
この推進会議のように、夜に1.5~2時間の会合であれば参加しやすい。
- ・ 他の自治体(西宮市)で、19歳の自治会副会長が誕生したと聞いた。周りの方がサポートし、若者がやりたいようにできる工夫をしている。

(次回に向けて)

- ・ 各委員共通のフォーマットを用いて、「現状・課題」「解決策」(~すればいい)を書き出す。また、コラムと称して「リアルな事例」も書き出す。
解決策が、のちに取り組のヒントや指針になる。
- ・ 1週間前の12月10日をめどに、田中部会長及び事務局にメール提出。

3 閉会